



報道各位

2016年 1月26日

福井県大野市

### 自治体の【新しい地方創生】のカタチ

“水で未来を拓くまち” 福井県大野市はCWP 活動を通じて  
水環境に恵まれない地域への支援とともにブランディングを図ります

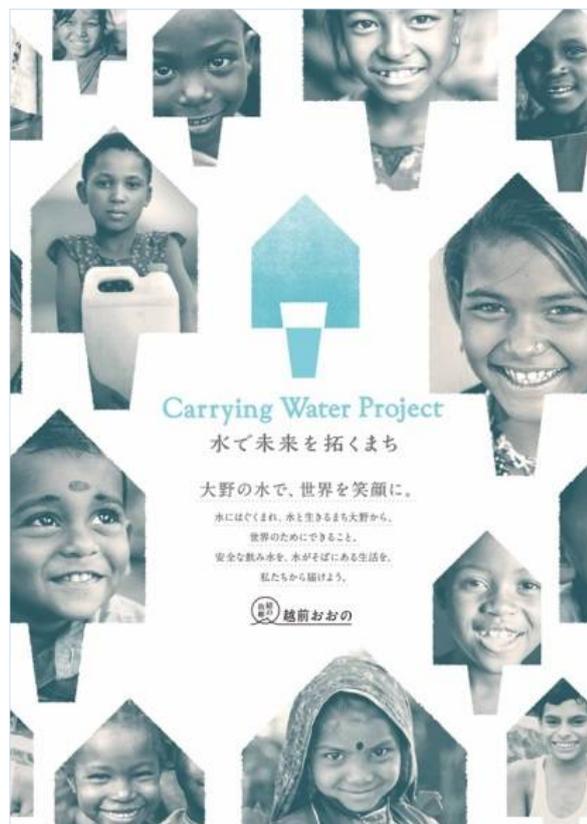
## 日本ユニセフ協会とパートナーシップを締結し 自治体初の「地域と用途を明確にした支援」を開始 ～支援先はアジアで最も水環境に恵まれない国・東ティモールに決定～

「水」による産業創出と魅力的なまちづくりをめざす福井県大野市(市長：岡田高大 以下、大野市)では、2015年5月より、人口減少対策プロジェクトの一つとして、まちの“財産”であり“アイデンティティ”でもある「水」をテーマとした「Carrying Water Project (キャリング ウォーター プロジェクト)」を始動し、地域創生に向けたブランディング活動を展開しています。

今回、大野市では、そのプロジェクトの一環として、公益財団法人 日本ユニセフ協会を通じて、アジアで最も「清潔で安全な水源の確保」に苦しむ国である東ティモールへの支援を決定しました。2017年1月より東ティモールでユニセフが実施する水支援プロジェクトを支援し、現地の子どもたちが清潔で安全な水へアクセスできることを目指します。

これは、恵まれた水環境の中で暮らしてきた大野市が、「水」への感謝の気持ちを表す行動で、支援国と用途を東ティモールの水支援事業に限定した複数年(3ヵ年)の支援です。

全国の地方自治体では初となる「地域と用途を明確にした支援」であり、Carrying Water Project 活動の中核となるものです。詳細は次項以降をご参照ください。



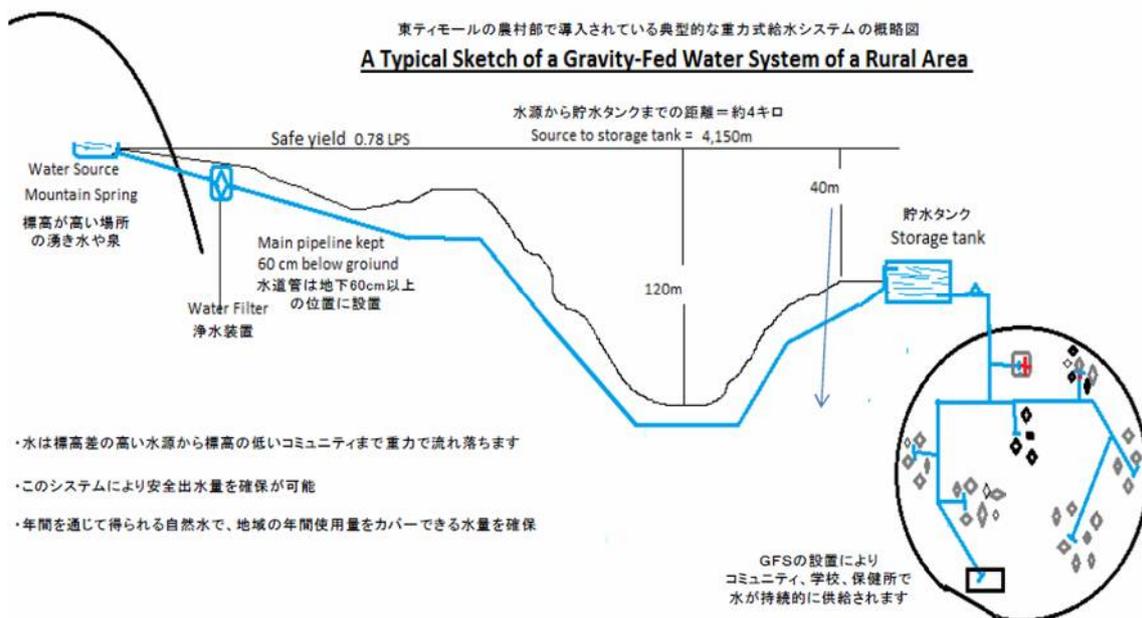
大野市が推進する  
Carrying Water Project ポスター

## ■ 東ティモールへの支援内容

山の湧き水を水道管で麓まで引いてくる「**重力式給水システム (GFS)**」の設置。この設備は、山岳地帯で険しい斜面が多い地形を持つ国の事情に合ったもので、標高の高い湧き水や泉などの水源から標高の低いコミュニティまでパイプでつなぎ、重力という自然の力を利用して水を供給する仕組みです。費用対効果が高く、二酸化炭素を排出しないので環境に優しいシステムです。

### ◆ 具体的な活動

- 1) エルメラ県、及びコヴァリマ県の教育局・水道当局と連携のうえ、重力式給水システムを優先的に導入する6つの学校ならびに地域を特定。
- 2) 学校の責任者・生徒、および地域住民が、重力式給水システムを設置・管理できるように行動計画の策定を仲介。
- 3) 6基（年間2基）の重力式給水システムの設置を実現。児童・生徒（1,500人）と周辺地域の人々（1,800人）が安全で持続可能な水にアクセスできるようにする。
- 4) 教師と生徒、および地域社会を代表とする水設備管理委員会の設立支援や、水道の運用・維持、水道料徴収のメカニズムの開発サポートなど、水道システム設置後の管理体制を整備。
- 5) 水源保護の重要性に関する意識向上のため、学校の生徒と教師を対象とした啓発授業を実施。
- 6) 東ティモール政府の諸機関や国内・国際NGOと連携して、国内の全ての人たちが安全な水にアクセスできるようになることを目指したアクションプランを策定。



## ■ 日本ユニセフ協会とのパートナーシップ締結に至った背景



私たちが暮らす日本は、世界平均の約2倍の降水量と、行き届いた水道設備を誇る、水に恵まれた国です。しかし、ひとたび世界に目を転じると、いまだに6億6,300万人もの人々が、水道も、整備された井戸も利用できず、生きるために欠かせない安全な水さえ手に入れられずにいるのが現状です。安全な水がない環境で、真っ先に命を落とすのは抵抗力の弱い、幼い子どもたちです。汚れた水を飲んだり、水不足で身体を清潔に保てないなどの理由で下痢性の病気にかかり毎日1,000人近くの子どもたちが5歳を迎える前に命を落としています。今回支援を行うことを決定した東ティモールでも、改善された水源を利用している人の比率は、95%（都市部）、61%（農村部）、70%（全国）という状況です（2012年現在）。

水は「貴重な財産」であり「アイデンティティ」と考える大野市では、水を通じた社会・世界貢献を考えています。なかでも国際的な貢献活動は「水で未来を拓くまち＝大野市」を世界へ発信し、ブランドを確立するための主要事業と考えています。

水に関して困難を抱える地域と絆を結び、支援や交流を図ることによって、大野市民が自らのアイデンティティをより深く理解するきっかけとします。同時に、実質的な貢献を実施・経験することで、水に恵まれた大野市民一人ひとりが「水への感謝（恩返し）」を行う機会にもなります。

また、大野市は、「かけがえのない<sup>おおのびと</sup>大野人」の育成を目指し、以前より、重要な市民の“ひとり”であり、かつ将来の大野市を担う「子ども」に関する様々な取り組みも積極的に行ってきました。これらは、ユニセフが世界的に進める「子どもにやさしいまち（＝Child Friendly Cities）事業」の思想とも合致すると考えます。

大野市が掲げる「水」と「子ども」という二つのテーマに基づき、国境を越えてできる社会貢献を考えた結果、東ティモールへの支援を実施するに至りました。この支援を通じて、ひとりでも多くの東ティモールの子どもの命が救われ、無事に成長することを祈っています。具体的な募金活動および資金調達は、これまで50回以上の歴史を持つ「大野名水マラソン」の参加者から寄付を募るほか、「Carrying Water Project」で行う様々な活動の中で募金を行います。また、寄付という概念的行為だけにとどまらず、現地の人々と直接触れ合う交流機会などを設けていくことも検討しています。

## ■ ユニセフ「子どもにやさしいまち(=Child Friendly Cities)事業」とは？

1989年の第44回国連総会で採択（日本は1994年に批准）された、「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」を、子どもとの距離が最も近い行政単位である地方自治体が具体化していく事業です。「子どもにやさしいまちは、すべての人にやさしいまち」との基本的な考え方にに基づき、子どもも、まちづくりの主体＝当事者として位置付けている事の特徴です。

### <ユニセフの「子どもにやさしいまち」の定義>

「子どもにやさしいまち」とは、子どもが次の事ができる“まち”です。

主語は「子ども」です。

- ・ まちの決定に影響を与えることができる
- ・ 子どもたちが望む“まち”の在り方に関して意見を言うことができる
- ・ 家族に、コミュニティに、社会生活に関わる
- ・ 教育や保健などの基本的サービスの供与に預かる
- ・ 安全な水や衛生施設を使うことができる
- ・ 搾取、暴力、虐待から守られる
- ・ まちを安全に歩くことができる
- ・ 友達と会い、遊ぶことができる
- ・ 植物や動物のための緑地を持てる
- ・ 汚染されていない環境で暮らす
- ・ 文化的社会的行事に参加する

出展：日本ユニセフ協会ホームページ <http://www.unicef.or.jp/cfc/>



© UNICEF/NYHQ2009-0178/Pirozzi



© UNICEF/MLWB2011-00348/Noorani

## ◆大野市の取り組み(例)

### ○心豊かに育つまちづくり ～「生きる権利」「守られる権利」「育つ権利」の基本的な環境整備～

- ・児童生徒の気軽な相談相手となり、ストレスを和らげ、不登校等を未然に防ぐため、教育相談員を小中学校に配置。(結の故郷教育相談員配置事業:H27 実績 10 人)
- ・公立幼稚園/小中学校に在籍し、特別な支援を必要とする園児・児童生徒が円滑な学校生活を送られるよう、教育支援員を配置。(結の故郷教育支援員配置事業:H27 実績 25 人)
- ・複式学級の部分的解消のため、非常勤講師を配置。(非常勤講師配置事業:H27 実績 3 人)
- ・いじめの未然防止や早期発見、早期解決、子どもたちの心のケアを図るため、相談窓口を開設してカウンセリングを実施。また、いじめ防止の啓発のため、「いじめ防止五か条」を作成。さらに、関係機関の連携により、相談窓口を一本化し、情報を共有。(いじめ防止対策事業)
- ・社会的に自立するための基盤となる能力を育てることを目的に、小学生の保育体験を実施。このことで、生命の大切さや育ててくれた人への感謝の気持ちを醸成。(小学生保育体験事業)
- ・経済的理由により、就学困難な児童生徒に対し、学用品費、給食費等を援助。(就学援助事業)
- ・子ども自身の「食」に対する意識向上を目指し、農業体験活動や、味覚の授業を実施。また、「子どもの食」についての意識向上を図るため、保護者を対象に給食試食会を実施。(食育推進事業)
- ・乳幼児を持つ親子の交流の場を提供し、子育てに不安を抱えている母親の悩みの相談に対応。(子育て交流ひろば事業)
- ・家庭で保育する乳幼児の親子の交流の場を提供し、育児不安についての相談に対応。(地域子育て支援センター事業)
- ・発達支援や放課後などに療育が必要な児童に対して集団生活への適応訓練などの療育を実施。(児童デイサービスセンター事業)
- ・軽度の発達障害の疑いがある児童とその保護者に対し、専門家による発達相談や小集団での発達支援。(すくすく子育て事業)
- ・虐待や非行など保護の必要な児童について、家庭児童相談員が相談窓口となり、関係機関と連携しながら適切に保護。(要保護児童対策事業)
- ・家庭での養育が一時的に困難になった児童を一定期間児童養護施設等で養育・保護。(子育て短期支援事業)
- ・18歳未満の子どもを養育している母子家庭やDV被害者母子が、生活上の様々な問題のため子どもを十分に養育できない場合、母子生活支援施設に一時的に保護し、自立を支援。(児童入所施設措置事業)

### ○子どもと大人が協働してつくるまちづくり ～「参加する権利」の土壌整備～

(生まれ育った地域を知り、愛着を持ち、参加する機会創出)

- ・小学生によるふるさと学習交流会やふるさと伝統芸能発表などを通して、地区に伝わる踊りを伝承すること、また、中学1年生と3年生全員が参加し、おおの城まつりを盛り上げる中学生みこしダンスパフォーマンスを実施することで、ふるさとへの愛着や誇りを醸成(結の故郷・人づくり学習事業・ふるさと文化伝承事業)
- ・地域の大人たちが、児童センターで、保護者が仕事などで日中いない家庭の小学生に、昔から伝わる伝承遊びなどを伝えながら、一緒になって遊ぶ。(放課後児童クラブ)
- ・地域の大人たちが、放課後、学校や公民館で小学生に昔から伝わる伝承遊びなどを伝える。(放課後子ども教室事業)
- ・小学生が、子ども議員となって、議場で市の施策について提案や質問を実施。(子ども議会の開催)

## ■大野市「Carrying Water Project (キャリング ウォーター プロジェクト)」とは?

大野市は、北陸の高い山々が連なる福井県東部に位置します。日本海から吹く風は、春・夏・秋には山々を駆け上って雨となり、冬には山々をすっぽりと覆うほどの雪となります。四季を通じて降る雨や雪は、地中でゆっくりと濾過され、清く豊かな湧水となって大野市を潤しています。市民は古くからその湧水を「清水(しょうず)」と呼び、生活の中に取り入れてきました。

大野市民にとって、水はまさしく「貴重な財産」であり「アイデンティティ」です。その水に着目し、改めて市民や関係者に「水への誇りと自信」を持ってもらうことで、一致団結・協力・共創しながら、人口減少対策として、まちの活性化につなげていくのが「Carrying Water Project」です。

※「Carry」という言葉には「運ぶ」という意味のほかに「伝える」という意味があります。大野市から「水への感謝の気持ち」を“支援”という形で届け、そのメッセージを大野市民に「伝える」というものです。



### ◆Carrying Water Project の目的

(日本国内の地域間競争を超えて、世界に通じる価値として…)

大野の歴史や文化、伝統を連綿と支えてきた豊かな「水の恵み」について国内のみならず、世界に向けて広く発信するとともに大野に暮らす人自身が、自らのアイデンティティとして再認識し、これを核として、新たな産業基盤の創出や人材教育・育成、地域資産・製品の競争力強化を図り、中長期的な人口減少対策を図る。

### ◆Carrying Water Project のビジョン



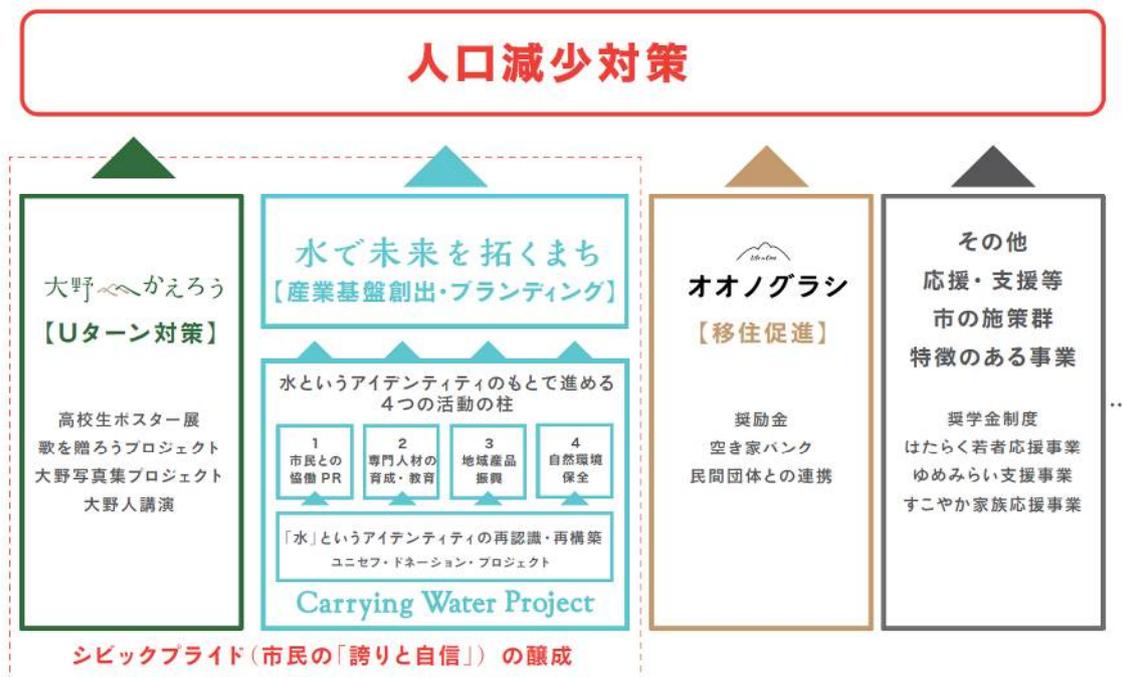
## ■大野市の人口減少対策への取り組みについて

大野市は、「水で未来を拓くまち」としてCWPを通じた産業基盤の創出とブランディングを推進すると同時に、Uターン対策（大野へかえろう）、移住促進（支援メニュー、オオノグラシ）等とも連携することで、総合的に施策を展開しています。

これらは人口減少を食い止めるための、戦略的かつ中長期的な取り組みです。

### ◆人口減少対策全体像

人口減少対策プロジェクト 全体像



## ■大野市「Carrying Water Project」の活動予定概要

### 「水」というアイデンティティの再認識・再構築を目指します

今回のユニセフとの東ティモールへのドネーションをはじめとして、今後も、市内外、世界に向けて、「大野の水」をアピールしていく活動を展開します。それらの活動を通じて大野市民のなかにある「水」という価値を再認識し、まちのアイデンティティとして再構築していきます。

#### ●活動1. 市民との協働 PR

##### ・越前おおの冬物語[2月]

市民にとっては長く厳しい冬の暮らしを強いられる「雪」もまた、春が来れば、豊かな「水」に変わります。

大野の冬の一大イベントである「越前おおの冬物語」にて、幻想的で美しい雪のイベントを通じ、「雪と水の関係性」に改めて目を向けてもらいます。



##### ・越前大野名水マラソン[5月]

今年 52 回目を数える市民マラソン。全国各地からも多くの人々が参加し、「水のまち、大野」をアピールする大きな機会です。今年からは参加者からのドネーションも募ることで「おいしい水を届けるマラソン」であるとともに、チャリティマラソンとして、世界と大野を結んでいきます。



<http://www.carrying-water-project.jp/run/index.html>

##### ・おおの城まつり[8月] ほか

その他、大野で開催される各種イベントにて、市民と協働しながら PR 活動を行うことで、対外的なブランディングと同時に、市民自らが改めて「水の恵み」に目を向ける機会としていきます。



## ●活動2. 専門人材の育成・教育

将来的に大野市のみならず、全国・全世界の水ビジネス・水問題に関わる人材を輩出することを狙った専門教育プログラムづくりを検討しています。

### ※今回の東ティモールへの寄付に関連した活動案

- ・学校教育における「水」に関する特別授業のさらなる拡充
  - ・水教育に関わる教育関係者の研修
  - ・ユニセフの水のエキスパートや東ティモールの子どもたちとの交流を通じたグローバルな視野の育成
- などを検討していきます。

## ●活動3. 地域産品振興

大野には「米」「そば」「里芋」「醤油」「日本酒」をはじめとした多くの地域産品があります。これらは「大野の水」に育まれた素晴らしい食材たちです。

水が良いから、食べ物がおいしい。

このシンプルだけれど大切なことを改めて訴求していきます。

## ●活動4. 自然環境保全

「大野の水」を将来にわたって、守り引き継いでいくための自然環境保全や研究を引き続き積極的に行っていきます。

## Carrying Water Project

キャリング ウォーター プロジェクト

<http://www.carrying-water-project.jp/>

## ◆公益財団法人日本ユニセフ協会について

190以上の国と地域で子どものために活動するユニセフ(国連児童基金)の日本における国内委員会。日本においてユニセフを代表するユニセフ協会(国内委員会)として、1955年に財団法人として設立され、(2011年に公益財団法人へ移行認定)、民間のユニセフ募金を集めるほか、ユニセフの世界での活動や世界の子どもたちについての広報、そして、「子どもの権利」の実現を目的としたアドボカシー(政策提言)活動を行っています。各国のユニセフ協会(国内委員会)は、ユニセフと「協力協定」と呼ばれる公式文書を締結しており、同協定は「ユニセフ協会(国内委員会)は各国の市民社会においてユニセフの利益を代表し、かつ促進する、ユニセフの唯一のパートナーである」と定めています。

名称 : 公益財団法人 日本ユニセフ協会 the Japan Committee for UNICEF

所在地 : 〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

代表者 : 会長 赤松 良子

設立 : 1955年6月9日 (2011年4月1日 公益財団法人移行)

## ◆東ティモールについて

[国名] 東ティモール民主共和国(The Democratic Republic of Timor-Leste)

[面積] 約1万4,900平方キロメートル

(東京、千葉、埼玉、神奈川の合計面積とほぼ同じ大きさ)

[人口] 約121.2万人(2014年、出典:世界銀行)

[首都] デイリ

[民族] テトゥン族等大半がメラネシア系。その他マレー系、中華系等、ポルトガル系を主体とする欧州人及びその混血等。

[言語] 国語は、テトゥン語及びポルトガル語。実用語に、インドネシア語及び英語。その他多数の部族語が使用されている。

[宗教] キリスト教99.1%(大半がカトリック)、イスラム教0.79%

[概要]

インドネシア東部に位置するティモール島の東半分位置する島国。

16世紀前半、ポルトガルに始まり、オランダ、日本、ポルトガル、インドネシアが支配。1999年には分離独立の是非を問う住民投票が行われ、住民の約8割が独立を選んだ。しかし、その後、独立反対派の武装勢力により治安が悪化。2002年によりやく独立に至った。以後も治安の悪化を繰り返しながらも、2009年を「インフラの年」と位置づけ、政府による国作りが進んでいる。しかし、今もなお、約37%の国民が1日1.25ドル以下で生活する厳しい状況が続いています。特に農村部では保健や教育、水と衛生などの基本的なサービスが未だに十分に行き届いていません。

[データ]

乳児(1歳未満児)死亡率:出生1,000人あたり46人/2013年

5歳未満児死亡率:出生1,000人あたり55人/2013年(日本は3人)

改善された水源を利用する人の比率:95%(都市部)/61%(農村部)/70%(全国)/2012年

改善された衛生施設を利用する人の比率:69%(都市部)/27%(農村部)/39%(全国)/2012年



## ◆福井県大野市

[市長] 岡田高大（おかだ たかお）

[人口] 3万4,788人（住民基本台帳人口／2016年1月1日）

[面積] 872.43km<sup>2</sup>（福井県最大）

[隣接市]

福井県／福井市、勝山市、今立郡池田町

石川県／白山市

岐阜県／高山市、郡上市、関市、本巣市、揖斐郡揖斐川町

[概要]

福井県内の市町の中では最大の広さを持ち、県面積のおよそ5分の1を占める。戦国時代に築かれた越前大野城は、現在は「天空の城」として有名で、そのふもとに広がる基盤目状のまち並みは、かつての城下町の面影を強く残し、「北陸の小京都」と呼ばれています。

「名水百選」に選ばれた御清水（おしょうず）や「平成の名水百選」に選ばれた本願清水など、まちの至るところで湧く清水は、城下町とともに代々守り伝えられてきた生活文化です。

